

新潟市の自然に育まれる
海岸林の野鳥たち



新潟市



新潟市の自然環境の特徴

- 「里潟、河川、水田をはじめとした水辺環境」や「市域の約4割を占める田園環境」、「都市部に隣接する里山」、「海岸保安林」があげられます。またこれらの自然環境は、「人の関わりによって形成」されたことも大きな特徴です。



つなげよう新潟の命 未来へつなごう新潟の命

田植えをおかえ、生きものが目覚める春
青葉が映え、あらゆる生命が躍動する夏
稲穂が輝き、山・海・里の幸を楽しむ秋
コハクチョウが潟や田んぼを行き交う冬

本市の四季のうつりかわりは、広大な田園や里潟、里山などの風景や、そこにくらすさまざまな生物の動きとして現れ、私たちはそれを当たり前のものでとらえてきました。

しかし現在、私たちの生活や自然との関わり方が変化する中、気づかぬうちに本市の美しい風景や自然の恵みの源となる生物多様性（命のつながり）が失われようとしています。

本市では、田園や里潟、里山などを、ひとつにつながった生物の生息・生育空間ととらえ、生物多様性の保全と持続可能な利用に取り組みます。



平成 23 年度生物多様性ワークショップで話し合われた意見をもとに作成した「新潟市の将来像」

渡り鳥の中継地となる海岸林

本市の海岸線に沿って長く続く海岸保安林は、飛砂・高潮の被害を防ぐ役割があり、現在もなお、本市の農地や住環境を守っています。保安林では、マツ枯れ被害が依然として範囲を拡大していますが、宅地が近接する場所では、鳥などにより庭木などの種子が運ばれたことで、その地に適応したさまざまな木々が新しい林を形成しています。

そのような海岸林には、春や秋の鳥の渡りの時期になると、普段は平野部で見ることが出来ない様々な鳥たちを観察することができます。

本市に広がる海岸林は、渡りをする鳥たちにとっては、休息をしたり、餌を食べるための重要な場所となっています。

人間の生活だけでなく、渡りをする鳥たちにとっても重要な海岸林は、今後も整備をして大切に守っていく必要があります。



海岸林で身近に見られる鳥を観察してみよう

普段身近に見ることが難しい鳥たちの、身近な観察場所として位置する海岸林において、今回は初夏に見られる鳥、および一年中見られる鳥を中心に紹介します。

何気なく見られる鳥たちも、名前が分かると同じ新潟市で生きる仲間として親近感がわいてきます。

是非、皆さんもこの冊子を片手に海岸林を散策してください。

ことばの説明

- 渡り**……鳥が季節によって移動すること
- 留鳥**……季節による移動はほとんどみられず、一年中日本でみられる鳥
- 夏鳥**……春から初夏に日本へ渡ってきて繁殖し、秋に再び暖かい南方に帰っていく鳥
- 冬鳥**……秋に日本へ渡ってきて越冬し、春に再び繁殖のため北方に帰っていく鳥
- 旅鳥**……日本以外の北方や南方で繁殖し、移動の途中日本に立ち寄ったり通過していく鳥
- 漂鳥**……季節によって日本国内を移動する鳥
- 迷鳥**……渡りの途中で方向を間違え、目的地以外の地域に来てしまった鳥

ものさし鳥

野鳥は見ていても大きさがわかりにくいことがあります。そこで、身近な野鳥で大きさを覚えておき、その鳥たちと見え方を比べることで大きさの参考にすることができます。

ものさし鳥には、スズメ、ムクドリ、キジバト、カラスなどが用いられます。



野鳥観察をする時には

みなさんの身近なところでも、たくさんの野鳥たちが生活しています。野鳥を観察する時には、野鳥にも周りの人にもやさしい気持ちで接するようにしましょう。

野鳥への気配り

- ・ 野鳥を不安にさせない距離から観察しましょう
 - ・ 静かにし、驚かせないようにしましょう
 - ・ 巣を見つけても近づかず、見守りましょう

自然への気配り

- ・ 足元の草花にも気を配りましょう
 - ・ ゴミは持ち帰りましょう
 - ・ タバコなど火の始末は厳重に

人への気配り

- ・ 他の人の迷惑にならないようにしましょう
 - ・ 親しみと協調が大切です



1

キジ (キジ目/キジ科)

全長 60~80cm

翼開長 75~80cm

留鳥



日本の国鳥に選定されています。

オスは顔が赤く、胸から腹にかけて濃い緑色の光沢がある鮮やかな色が特徴です。メスは黄褐色の地に黒褐色の斑紋がありオスよりも地味な色で見分けがつけます。

オスはなわばりを示すときにケーン、ケーンと大きな声で鳴くほか、羽をふるわせて音を立てる「ほろうち」という行動を行います。平地から山地の林、農耕地、河川敷などの明るい草地で生活し、おもに草の種子、芽、葉などの植物質のものを食べます。

2

キジバト (ハト目/ハト科)

全長 33cm

翼開長 55cm

留鳥



身近なハトのなかまで、1年中見ることができます。

胸から腹は赤味がかかった灰色、羽根には赤褐色と濃い灰色の模様があります。

デデッポー、ゼゼッポーと鳴き、街中の公園や平地から山地の林などで生活します。地上で歩きながら植物質の餌をとりますが、木の上で木の実を食べることもあります。

3

トビ (タカ目/タカ科)

全長 59~69cm

翼開長 157~162cm

留鳥



最も身近なタカのなかまで、1年中見ることができます。

全身褐色で、翼の下面に白い紋があり、黒い眼をしています。長い尾は、とまっているときはM字に、飛んでいるときは三味線のばちのような三角形に見えます。

ピーヒョロヒョロヒョロと鳴き、湖沼や川、海岸、農耕地などで見られます。動物の死体のほか、ネズミやヘビなど生きている小動物も捕食します。

4

オオタカ (タカ目/タカ科)

全長 50~56cm

翼開長 106~131cm

留鳥



市内でも繁殖をしているタカのなかまでです。

背は青灰色で、白っぽいのどから腹にかけては横縞が多数、尾には4本の黒帯があります。幼鳥は全身褐色で、腹には縦縞があります。ケツケツケツ、ピョーと鳴きます。

平野部や海岸線の松林などに生息し、冬場は農耕地や市街地、湖沼などでも見られます。カモやハト、小鳥類、ノウサギなどを捕食します。

5

コゲラ (キツツキ目/キツツキ科)

全長 15cm

翼開長 26cm

留鳥



スズメと同じくらいの大きさのキツツキのなかまです。

頭から体の上面は黒色で、白色の横の斑紋があります。また目から頬にかけても黒色があり、胸から脇にかけて褐色の縦の斑紋があります。

ギーーツ、ギーーツ、キッキッキなど鳴きます。平地から山地の林で生活していますが、街中の公園でも見ることができます。枯れ木の中などにいる昆虫類や小動物を取り出して食べます。

6

モズ (スズメ目/モズ科)

全長 20cm

翼開長 27cm

留鳥



頭が大きくて、尾も長めです。オスメスともに目の周りに太い線があり、オスは翼に白い紋があります。

秋にはキイーツ、キィキィキィと高い声で鳴く他、他の鳥の鳴き方をまねて複雑な声で鳴くこともあります。

街中の公園や、農耕地、河原、平地から山地の林などで生活し、電柱や木の枝などの高い所にとまっていることもあります。捕まえた獲物を小枝やトゲにさす「はやにえ」という習性があります。

7

オナガ (スズメ目/カラス科)

全長 36cm

翼開長 40cm

留鳥



尾の長いカラスのなかまです。

頭の上部が黒く、翼から尾にかけてうすい青色のきれいな姿をしています。

グェーイ、グェーイなどと濁った大きな声で鳴きます。

市街地の公園、農村部から農村周辺の林に群れで生活しています。木の上で昆虫や木の実を食べますが、地面に降りて餌を探すこともあります。

8

ハシボソガラス (スズメ目/カラス科)

全長 50cm

翼開長 100cm

留鳥

9

ハシブトガラス (スズメ目/カラス科)

全長 56cm

翼開長 105cm

留鳥



8

くちばしが細いカラスのなかまです。ガア、ガアなどと濁った声で鳴きます。農耕地、河原、山地で生活し、街中ではあまり数が多くありません。雑食性でいろいろなものを食べます。

9

ハシボソガラスよりもくちばしが太く、額がでっぱっているのが特徴です。カー、カー、アー、アーなどとすんだ声で鳴きます。街中でもよく見られますが山地などでも生活しています。雑食性です。

10

シジュウカラ (スズメ目/シジュウカラ科)

全長 14cm

翼開長 22cm

留鳥



街中でも身近に見られる身近な鳥です。

頭の上、頬の周囲、喉からお腹を通る黒色が特徴で、白い頬が目立ちます。

ツーピー、ツーピー、ツツピー、ツツピー、チッチッ、ジュクジュクなどと鳴きます。

市街地の公園から平地の林、山間部にまで広く生息し、他の種類と混ざった群れを作っていることもあります。

11

ヒバリ (スズメ目/ヒバリ科)

全長 17cm

翼開長 32cm

留鳥



スズメに似ていますが、スズメよりも大きく、警戒している時には頭の羽をたてることもあります。

繁殖期にはピュルル、ピュルル、チュビチュビなどと飛びながら複雑な声で鳴き、上空から声が聞こえてくることがあります。聞きなしでは「日一分(ひいちぶ)、日一分」と言われています。

平地から山地の草地、河原などで生活し、草むらに巣を作ります。

12

ツバメ (スズメ目/ツバメ科)

全長 15~17cm

翼開長 30~32cm

夏鳥



頭から尾まで光沢のある黒色で、額とのどは赤色です。腹は白く、尾羽は長く2本に分かれています。幼鳥は尾が短いのが特徴です。

チュピツ、ツピツと複雑な声で鳴きますが、聞きなしでは「虫食って土食ってしぶーい」と言われています。

春先に南から渡ってくる夏鳥で、街中から農村部の集落などの住宅地や建物で巣を作り、子育てを行っています。飛びながら昆虫類や小動物を捕まえて食べます。

13

ヒヨドリ (スズメ目/ヒヨドリ科)

全長 27cm

翼開長 40cm

留鳥



ムクドリよりもやや大きく尾の長い鳥です。体は灰色で頬に褐色があります。

ピーヨ、ピーヨとにぎやかな声で鳴き、飛ぶ時には大きな波形を描いて飛翔します。

市街地の公園や住宅地の庭、平野、山地の林で生活し、木の実などを食べます。

14

ウグイス (スズメ目/ウグイス科)

全長 14~16cm

翼開長 17~21cm

留鳥



スズメくらいの大きさで、体は全体的に茶色の褐色です。目の上側に薄い線の模様があります。

ホーホケキョと大きな声で鳴きます。また警戒している時に「ケケケケ、ケキョケキョ、ケキョケキョ」と鳴く声が、ウグイスの谷渡りと言われています。

里山から山地の下草がある藪の中で子育てをしますが、市街地の公園や住宅地の庭などにも訪れます。ムシクイの仲間よりは、尾がやや長いです。

15

エナガ (スズメ目/エナガ科)

全長 13cm

翼開長 16cm

留鳥



体が小さく尾の長い鳥です。くちばしは短く、頭は白くて目の周辺に黒い線があります。胸が白く腹にはうすい紫色が見られます。

チーチーチー、チャッチャツ、ジュルジュル、ツリリなどと鳴きます。群れを作って生活していますが、冬などには他の種類と混ざった群れを作ることがあります。郊外の林から山間部の林で生活しています。

16

エゾムシクイ (スズメ目/ムシクイ科)

全長 11cm

翼開長 18cm

夏鳥

17

センダイムシクイ (スズメ目/ムシクイ科)

全長 13cm

翼開長 19cm

夏鳥

16



17



16

背が茶色みのある緑色をしており、のどから腹にかけては白色をしています。目の上には眉のような模様があります。ツーカーヒーと高い声でさえずり、樹の茂みに入っても声で見つけることができます。

春と秋に海岸林で見られ、夏の子育ての時期には山地の林で見られます。樹上で見られることが多く、主に小さな虫を食べています。

17

背が黄色みのある緑色をしており、のどから腹も黄色みのある白色をしています。目の上には眉のような模様があり、頭の中央に眉と平行の1本の模様があります。チヨチヨビーと少しにごったような声でさえずります。春と秋に海岸林で見られ、夏の子育ての時期には山地の林で見られます。樹上で見られることが多く、主に小さな虫を食べます。

18

メジロ (スズメ目/メジロ科)

全長 12cm

翼開長 18cm

留鳥



スズメよりもやや小さく、背面はやや暗めの黄緑色をしています。目の周りに白い輪があります。

チーチュルチーチュルなどと早いテンポで鳴きます。聞きなしでは、「長兵衛、忠兵衛、長忠兵衛」と言われています。

市街地の公園や住宅地の庭、平野、山地の林で生活し、花の蜜を吸ったり、果実を食べたりします。

19

ムクドリ (スズメ目/ムクドリ科)

全長 24cm

翼開長 40cm

留鳥



市街地でも見られる身近な野鳥です。

全体に黒っぽい灰色をしており、顔や腰は白いです。くちばしと脚のオレンジ色が目立ちます。

キュル、キュキュッと鳴きます。

樹洞を利用して繁殖する野鳥ですが、市街地では換気扇や屋根の隙間などでも子育てをします。

開けた草地や畑地において主に虫を食べますが、虫の少ない時期には木の実なども食べます。

20

コムクドリ (スズメ目/ムクドリ科)

全長 19cm

翼開長 32cm

留鳥



オスは全体に白っぽい色をし、背や翼などが黒く、顔に茶色い模様があります。メスは全体に白っぽい色をしています。

ムクドリよりも少し高い声でキュッ、ギュッと鳴きます。

樹洞を利用して繁殖する野鳥ですが、市街地では人工物の隙間などでも子育てをします。

主に虫を食べますが、虫の少ない時期には木の実なども食べます。

21

クログミ (スズメ目/ヒタキ科)

全長 22cm

翼開長 35cm

夏鳥



全体が黒く、黄色いくちばしと脚がめだちます。胸の下は白い腹に黒い斑点模様があります。メスは黒みが薄く、脇腹にオレンジ色の部分があります。

キョロンピチチジリリなど複雑な音色でさえずります。

主に虫を食べますが、虫の少ない時期には木の実なども食べます。

多くは山地へ行って子育てをしますが、海岸林でも繁殖をしています。

22

アカハラ (スズメ目/ヒタキ科)

全長 23cm

翼開長 37cm

夏鳥



顔から背、尾にかけて薄い茶褐色をしており、胸から腹にかけてオレンジ色の部分が多い。オスは顔が黒っぽいです。

キョロロツイー、チュイツイチャーなど様々なさえずりがあります。

主に虫を食べますが、虫の少ない時期には木の実なども食べます。

多くは山地へ行って子育てをします。

23

コマドリ (スズメ目/ヒタキ科)

全長 14cm

翼開長 22cm

夏鳥



顔はオレンジ色、頭から背にかけて暗いオレンジ色をし、胸の下から腹にかけては灰色をしています。

ヒンカララララ、と高い声でさえずります。

藪のような茂ったところを好み、地面において、クモやミミズなどを探し出して食べます。

海岸林では早春から見られ、夏には主に亜高山帯（1700～2500m）で繁殖しています。

24

コルリ (スズメ目/ヒタキ科)

全長 14cm

翼開長 22cm

夏鳥



頭から背にかけて暗めの青色をし、のどから腹にかけては白いです。

顔や翼には黒いところもあります。若い時には、青色がはっきりしないものもあります。メスの頭から背にかけては黄色みのある褐色をしています。

ヒンヒンヒンチョチヨチヨチヨ、と高い声でさえずります。藪のような茂ったところを好み、地面において、クモやミミズなどを探し出して食べます。

低山から亜高山にかけて繁殖します。

25

イソヒヨドリ (スズメ目/ヒタキ科)

全長 25cm

翼開長 38cm

留鳥



オスは頭から胸にかけて藍色でお腹は赤い褐色をしています。メスは全体的に茶色で特に背面が濃い色をしています。

「ホイピーチョイチョイ」などときれいで複雑な声でさえずります。

海岸の近くで生活し、岩、マツなどの木の枝、電柱、屋根の上などにとまっています。地上で小動物を捕まえて食べます。

26

コサメビタキ (スズメ目/ヒタキ科)

全長 13cm

翼開長 21cm

夏鳥



全体に灰色をしており、のどから腹にかけて白っぽいです。おおきな目が特徴です。

チィッ、チィ、と鳴きます。

主に飛んでいる小さな虫を食べます。

開けたところの枝などにとまり、餌を見つけては飛び戻ってくる行動が見られます。

1羽で見られることが多いですが、秋には群れにも出会うことがあります。

海岸林では春と秋に見られ、夏に山地で繁殖します。

27

キビタキ (スズメ目/ヒタキ科)

全長 13cm

翼開長 22cm

夏鳥



背中側の黒色と眉やのどの黄色が特徴です。翼には白い帯状の模様があります。メスは全身が薄い茶色をしています。

若い時には色味が薄いこともあります。

ヒーチャン、ピッピリピィなどと様々なさえずりをします。主に飛んでいる小さな虫を食べます。

開けたところの枝などにとまり、餌を見つけては飛び戻ってくる行動が見られます。

平野から山地にかけての林で繁殖します。

28

オオルリ (スズメ目/ヒタキ科)

全長 16cm

翼開長 27cm

夏鳥



頭から尾にかけての鮮やかな青色が特徴の野鳥です。顔やのどは黒っぽく、腹は白いです。メスは全体に茶色っぽいです。

若い時には青みがあまりないこともあります。

ヒーリーリーチジジッなどとさえずります。

主に飛んでいる小さな虫を食べます。

開けたところの枝などにとまり、餌を見つけては飛び戻ってくる行動が見られます。

春と秋に海岸林で見られ、夏の子育ての時期には山地の林で見られます。

29

スズメ (スズメ目/スズメ科)

全長 15cm

翼開長 23cm

留鳥



身近に見られる代表的な野鳥で、他の種類と大きさを比較する「ものさし鳥」としても取り上げられます。

頭から背中が茶色で、頬が白くその周りに黒い模様がありますが、幼鳥にはこの黒い模様がはっきりとでません。

チュン、チュン、ジュジュジュなどと鳴きます。

1年中住宅地付近で生活し、地面で草の種子や人が落としたものなどを食べますが、子育ての時には昆虫類も捕まえます。ねぐらをとる時には、大きな群れを作ることがあります。

30

カワラヒワ (スズメ目/アトリ科)

全長 14cm

翼開長 24cm

留鳥



体はオリーブ色で羽根の先が黒く、くちばしが太めに見えます。飛翔した時には、羽根に黄色の帯が見られます。

キリリ、コロロ、ジュイーンなどと鳴きます。

市街地の公園や住宅地の庭でも見られる他、河原や農村部や平野部周辺の林で生活し、植物質のものを中心に、特に種子を好んで食べます。

31

ホオジロ (スズメ目/ホオジロ科)

全長 16cm

翼開長 23cm

留鳥



オスは頭と背面が茶色で、頬に白い模様があります。お腹の中央部分も白色です。

チョイピー、チリーチョなどと短い声でさえずります。聞きなしでは「一筆啓上仕り候」と言われています。また地鳴きではチチッ、チチッと鳴きます。

平地から山地の林や林縁で生活し、木の梢や電線など高い所にとまって鳴いているところを見ることができます。昆虫類や植物の種子を食べます。

32

アオジ (スズメ目/ホオジロ科)

全長 16cm

翼開長 22cm

留鳥



オスは頭と頬が緑の混ざった灰色で、くちばし付近には黒色が見られます。また喉からお腹にかけて黄色です。

「チョッピーチョッ、チチクイチリリ」などゆっくりしたテンポで囀ります。

山地の林や林縁で子育てをし、秋には平地や市街地の公園などの林で生活します。地上で、植物質や昆虫類を食べます。

海岸林で冬に見られる鳥たち

アカゲラ (キツツキ目/キツツキ科) 全長 24cm、翼開長 39cm



白黒の体をしているキツツキのなかまです。

尾の下側にある赤い模様が目立ちます。

オスは後頭部にも赤いところがあります。

シロハラ (スズメ目/ヒタキ科) 全長 25cm、翼開長 40cm



ひかえめな色合いですが、脚と目の周りの黄色が目立ちます。茂みを好み、よく地上を歩いている野鳥です。

ツイーツ、キョッキョツと鳴きながら飛び去ります。

ツグミ (スズメ目/ヒタキ科) 全長 24cm、翼開長 39cm



のどと目の上が白っぽく、翼は暗めのオレンジ色をしています。

草地や畑地など開けたところをよく歩いています。

キョッキョツ、キャツと鳴きます。

ジョウビタキ (スズメ目/ヒタキ科) 全長 14cm、翼開長 22cm



オレンジ色の体と翼の白い丸模様が目立つ小鳥です。

オスは顔が黒く、頭が灰色で、メスは全体に薄茶色です。

ヒッヒッヒッと高い声で鳴きます。

カシラダカ (スズメ目/ホオジロ科) 全長 15cm、翼開長 24cm



目の上とほほの下に白い模様があり、背や脇腹には赤茶色の模様があります。

林の縁や草地などで見られます。チツ、チツと細く鳴きます。

海岸林でバードウォッチング



凡例 — : 探鳥コース

★ : 集合場所

■ : 解散場所

0 50 100m 200 300 400 500m



バードウォッチングの整理

年 月 日 場所

番号	種 類	確 認	番号	種 類	確 認
1	キジ		32	オオムシクイ	
2	キジバト		33	メボソムシクイ	
3	アオバト		34	エゾムシクイ	
4	ホトトギス		35	センダイムシクイ	
5	カッコウ		36	メジロ	
6	ミサゴ		37	ムクドリ	
7	トビ		38	コムクドリ	
8	オオタカ		39	トラツグミ	
9	オオコノハズク		40	クロツグミ	
10	フクロウ		41	シロハラ	
11	アカショウビン		42	アカハラ	
12	カワセミ		43	ツグミ	
13	コゲラ		44	コマドリ	
14	アカゲラ		45	ノゴマ	
15	アオゲラ		46	コルリ	
16	ハヤブサ		47	ルリビタキ	
17	サンショウクイ		48	ジョウビタキ	
18	サンコウチョウ		49	イソヒヨドリ	
19	モズ		50	コサメビタキ	
20	オナガ		51	キビタキ	
21	ハシボソガラス		52	オオルリ	
22	ハシブトガラス		53	スズメ	
23	ヤマガラ		54	ハクセキレイ	
24	ヒガラ		55	ビンズイ	
25	シジュウカラ		56	カワラヒワ	
26	ヒバリ		57	ベニマシコ	
27	ツバメ		58	ウソ	
28	ヒヨドリ		59	イカル	
29	ウグイス		60	ホオジロ	
30	ヤブサメ		61	カシラダカ	
31	エナガ		62	アオジ	
確認された野鳥の種類 _____ 種類					
メモ					

確認された鳥は、該当する鳥の種類の確認欄に○印を記入してください。

編集協力 にいがた野鳥の会
発 行 新潟市環境部環境政策課
電話 025-226-1359

平成 28 年 3 月発行